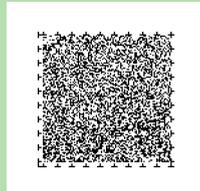




あくまでも競技するのは選手です。選手がどうしても競技に取り組みやすいか、記録が出やすいかなど常に「選手ファースト」で考えています。

ありが

バ ヒューマン ドキュメント



ブラインドランナーズ/伴走・コーラー

[上園 真吾]さん

選手の目となり、力になる

2005年に結成された視覚障害者の陸上競技チーム『ブラインドランナーズ』は、ハートピアかごしまを拠点に、月に2回、選手、伴走者・コーラーそれぞれ、約25名で活動しています。伴走者とは、視覚障害者と一緒に走る人のことです。視覚障害者の目となり、方向指示を出し、障害物を避けるなど選手をサポートする重要な役割です。チームの一員である上園真吾さんは、13年前に伴走を始め、伊佐市役所に勤務しながら、伴走者・コーラーとして活動しています。

伴走者は、選手との信頼関係を築くためにコミュニケーションが何よりも大切です。目が見えない選手に安心してもらうため、カーブや障害物など、コースの状況をその都度伝える必要があります。上園さんは、「選手は、少しい手の振りのズレでも違和感を抱くことがあるので、一方的な指示を伝えるのではなく、選手から状況を聞きながら伴走することとを心がけています。また、極力選手の手足の動きに合わせるようにしています。」と伴走者としての技術を語ってくれました。

走り幅跳びのコーラーは、真っ直ぐ助走させるために音を出して選手を導き、踏切のタイミングを教えるという役割です。手拍子などで走る方向や跳ぶ位置を選手に伝える必要があるため、選手が跳ぶ踏切線のギリギリまで立ち、走る方向をコーラーします。上園さんは、「コーラーが早く踏切線から離れると、選手がコーラーの声の方に走り、跳ぶ位置がずれてしまいます。選手にはコーラーの自分にぶつかると勢いで走ってくるよう伝えていきます。伴走、コーラーどちらの時も「選手がどうすれば競技しやすいか」を考えながらサポートをしています。全国の中でも、サポートは上手い方だと思っています。」と、照れながらも話してくださいました。

スポーツ選手 として

活躍してもらうために

上園さんは、障害のある選手にスポーツを楽しむだけでなく、「スポーツ選手」としての活躍も望んでいます。しかし、視覚障害を持っていての方には「目で見たままのことを伝える」ということが難しく、指導方法について悩んだ時期もあったそ

うです。そんな時、視覚障害者の三雲明美さん(ブラインドランナーズ代表)が、伴走者と綺麗に疾走する姿を見て衝撃を受け、選手の手持っている能力を引き出す指導を行うことで、しっかりと選手と向き合っていることと感心したそうです。

上園さんがサポートした選手が、日本選手権や国際大会で活躍しています。「昨年の『特別全国障害者スポーツ大会かごしま大会』では、2名が表彰台に立つことができました。選手が、私を色々な大会に連れて行ってくれるんです。」と、嬉しそうに上園さん。

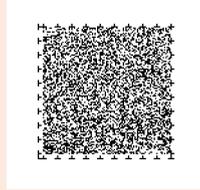
「伴走に資格は不要です。一緒に走ると自分の記録も伸びる、そんな相乗効果もあります。興味のある方、一度見学に来てみませんか！」



井手口選手「伴走者がいれば安心して風を切って走ることができます。その爽快感と一緒に味わってほしいです。」



ブラインドランナーズ
練習場所：ハートピアかごしま
〒890-0021 鹿児島市小野1丁目1-1
連絡先：090-3325-5472 (代表：三雲)



上園さんがコーラーを務めている井手口勝博選手は、かごしま大会の走り幅跳びで金メダル(大会新記録)を獲得